

アフリカ南部のザンビアで国際協力活動を行う吉野川市のNPO法人・TICOが現地で建設していた出産待機施設「お産を待つ家」が9日、開設される。近くに医療機関がなく、リスクの高い自宅分娩を余儀なくされる妊婦に利用してもらおう。ザンビア政府から医療スタッフの派遣を受け、安心して出産できる環境を提供する。

ザンビアに

出産待機施設



「お産を待つ家」の開設を計画。県内外から寄付金を募り今年4月、診療所隣に鉄骨れんが造り180平方メートルの建物を完成させた。妊婦と家族が滞在できる個室4部屋、分娩室、キッチン、シャワールームなどを完備。出産予定日の2週間ほど前から宿泊してもらおう。

滞在する妊婦のケアは、看護師と助産師の資格を持つ診療所スタッフが担当。業務に支障が出ないよう、診療所にはさらに1人のスタッフが増員された。10人ほどの保健ボランティアも両施設の運営を支える。

当初は4月開設の予定だったが、政府保健局によるスタッフ派遣が遅れ、11月にずれ込んだ。

1月から現地入りし、開設作業や政府との調整に当たっているTICOザンビア事務所の瀬戸口千佳さん(28)は「現地の人も大きな期待を寄せてくれている施設なので、開設にこぎ着けてよかった。たくさんの人に利用してもらい、母子の健康に貢献できたら」と話している。(乾菜里子)

吉野川市のNPO法人

TICOは2009年3月、首都ルサカ市から約100キロ北のモンボシ地区に診療所を開設。毎日30人ほどが受診に訪れ、分娩も1カ月に約20件扱う。ただ現地は交通事情が悪く、陣痛が始まってからの長距離移動は困難。自宅で出産し、不衛生な環境や専門知識のない家族らの不適切な処置で母子が命を落とすこともあるという。

TICOは10年末から

TICOが建設した「お産を待つ家」と、運営を支える現地の保健ボランティアらにザンビアのモンボシ地区(TICO提供)

現地で建設、きょうオープン

